

都道府県・ 指定都市番号	32	都道府県・ 指定都市名	島根県	研究課題番号・校種名	2 小学校
				教科名	体育
研究課題	<p>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p>【運動領域】</p> <p>2 学年のまとめりとして示された A～F 各領域の指導内容 (2) 「思考力, 判断力, 表現力等」について, 既習の知識及び技能を基に思考・判断・表現し, 児童自らが課題解決を図るための効果的な指導と評価の在り方についての研究</p> <p>【保健領域】</p> <p>身近な生活における健康課題を把握し, その解決を目指して具体的に考え, 判断し, それらを表現する力の育成を目指して, 「知識を活用する学習活動を取り入れる指導方法の工夫」のための具体的な指導方法等の研究</p>				
ふりがな 学校名 (児童数)	にしのみまちょうりつにしのみましようがっこう 西ノ島町立西ノ島小学校 (100人)				
所在地 (電話番号)	島根県隠岐郡西ノ島町大字美田 3515 (08514-6-0404)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.pref.shimane.lg.jp/hokentaiku/ (島根県教委)				
研究のキーワード	課題解決学習 主体的・対話的で深い学び カリキュラム・マネジメント ICT機器の活用				
研究結果のポイント	<p>○主体的に課題を解決するための学習活動等の工夫について, 主発問・補助発問の吟味や効果的な学び合う形態の検討に取り組んだ。これにより, 児童が課題の解決に向けて試行錯誤する過程の在り方が整理され, 児童の主体的に学びを解決しようとする姿や課題の解決に向けて協働的に学ぶ姿が見られるようになった。</p> <p>○主体的に課題を解決するための学習環境等の工夫について, カリキュラムマップを用いた単元配列の見直しやティーム・ティーチングによる授業展開の検討に取り組んだ。これにより, 身に付けるべき知識及び技能の系統性や運動に苦手意識を抱える児童への支援の在り方が整理され, 児童の運動技能の向上や既習事項を活用して思考・判断・表現する姿につながった。</p>				

1 研究主題等

(1) 研究主題

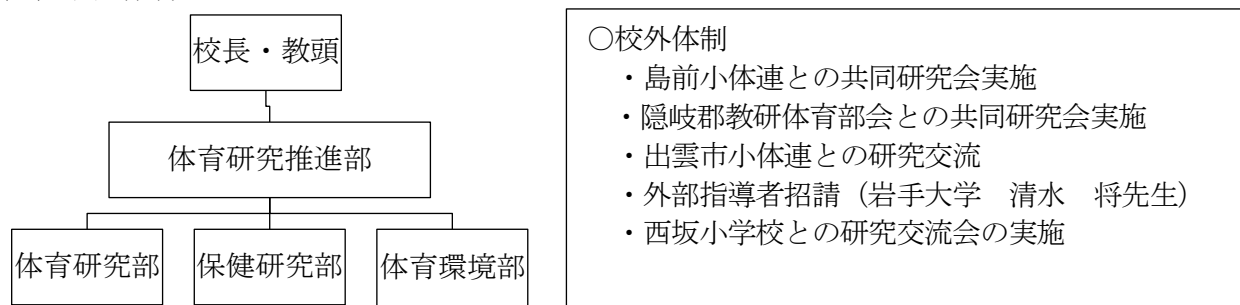
「自ら学び, 考え, 解決する楽しい体育の創造
～わかる できる 学び合う 体育学習を目指して～」

(2) 研究主題設定の理由

本校の新体力テストの結果を全国平均と比べると, 合計点が全学年男女ともに上回っている。また, 保健領域的側面から児童の実態を見ると, 保健に関する学習指導や定期的な生活習慣調査により, 自らの健康を保持増進していくための知識を身に付けている児童が多い。一方, 日常の授業の様子を見ると, 「どうすれば, きれいに技ができるか」「健康に生活するために, 自己の生活で大切にすべきことは何か」等の課題を見付け, 児童自らが思考・判断・表現しながら課題解決を行っていく力が十分に育成されておらず, 児童を対象に行った意識調査からもその実態が明らかとなった。

以上のことから, 1 年目は「器械運動」並びに「毎日の生活と健康」領域を中心に, 2 年目は他領域へも範囲を広げながら, 思考力, 判断力, 表現力を育むための協働的な課題解決学習, 評価の在り方の研究を進め, 児童が生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに, 健康の保持増進と体力の向上を図り, 楽しく明るい生活を営む態度を育成していきたいと考え, 本研究主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成 29 年度	4月	研究推進計画の作成 (組織, 年間スケジュール, 仮説, 研究方法等)
	5月	児童アンケート実施
	6月	指導主事訪問 研究授業 (外部講師招請)
	7月	教材研究・指導案検討
	10月	教科調査官を招請した授業実践及び研究協議 隠岐郡西ノ島大会での授業公開 先進校研究会への参加と報告 教材研究・指導案検討
	12月	指導主事訪問 研究授業 (外部講師招請)
	2月	児童アンケート結果の考察 研究成果中間報告会
平成 30 年度	4月	研究推進計画の作成 (組織, 年間スケジュール, 仮説, 研究方法等)
	6月	指導主事訪問 研究授業 (外部講師招請)
	7・8月	教材研究・指導案検討
	10月	教科調査官を招請した授業実践及び研究協議
	11月	西坂小学校の研究実践視察
	12月	指導主事訪問 研究授業 (外部講師招請)
	1月	研究授業
	2月	児童アンケート結果の考察 研究成果報告会

2 研究内容及び具体的な研究活動

【主体的に課題を解決するための学習活動等の工夫】

(ア) 学習活動の工夫

○発問の工夫

運動領域においては、児童の意識の流れや変容に沿いながら、技能の習得につながる発問を吟味し、児童が課題を解決する過程で試行錯誤する場面が生まれるようにした。保健領域においては、児童の過去の経験や既にもっている知識を把握し、新たな知識の獲得につながる発問を吟味し、児童が課題を解決する過程で試行錯誤する場面が生まれるようにした。

○能動的な学習活動の設定

運動領域においては、児童が課題を解決する過程で揺さぶりをかける補助発問を提示し、必要感のある対話が生まれるようにした。保健領域においては、ブレインストーミング、ケーススタディ、イメージマップ、ジグソー学習等の中から児童の実態や本時の学習活動に適した手法を吟味し、児童が主体的に課題を解決することができるようにした。また、資料との対話の観点から、課題を解決する際の手助けとして効果的であるデータや事例について検討した。

(イ) 評価の工夫

運動領域においては、授業者の主観による評価のみに偏ることがないように、学習カードやICT機器を用い、多面的に評価した。また、単元全体を通して形成的評価を行い、本時の振り返りを次時の課題につなげる等、指導と評価の一体化を重視した。保健領域においては、一単位時間の評価を基本としながら、単元を通して児童の変容を見取れるよう、学習カードや対話や発言の様子などを継続的に評価した。また、授業者が評価する他に、児童が自己評価や相互評価を用いるなど多様な評価を行った。

(ウ) 学習形態の工夫

ペア・トリオ・グループ、等質・異質グループ等、児童が課題を解決する過程として適した手法や学習形態を設定し、学び合いの質が高まるようにした。

(エ) 教具・器具の工夫

○掲示物の工夫

運動領域においては、書き込み式掲示物を作成し、児童が直接気付きを書き込む活動を奨励することで、主体的な課題の解決を促した。また、児童が思考したことを付箋紙に書いて連続図に貼る活動を取り入れ、運動のこつを可視化するとともに、その共通理解を図った。

○ICT機器の活用

運動領域においては、タブレットを用いた動画撮影を取り入れ、互いの技やプレイについて児童同士で助言し合うことができるようにした。また、器械運動の授業では、タブレットの遅延再生アプリを活用し、自身の技を視覚的に観察することができるようにした。

【主体的に課題を解決するための学習環境等の工夫】

(ア) 単元計画の工夫

○カリキュラムマップの作成・見直し

各学年における体育科の単元配列と各教科や行事との関連を示したカリキュラムマップを作成し、他教科との関連を意識した学習を展開することができるようにした。

○単元配列の工夫

運動領域においては、全学年で同領域の学習時期を揃え、器具・教具の準備時間削減を図った。器械運動については、マット運動の学習を経て跳び箱運動の学習に取り組む流れを統一し、マット運動で身に付けた技能が跳び箱運動で生きるようにした。また、低・中・高学年の学習を2年間一括りで捉え、同様の単元指導計画をスパイラルに繰り返す中で、できる技を増やしたりできる技の精度を更に高めたりすることができるようにした。

○中学校への接続

小・中一体型施設であることを活かし、小・中学校の教員が互いに異校種の授業を参観し合うことにより、中学校への接続を見据えた系統性のある指導を目指した。

○地域・家庭との連携

運動領域においては、柔軟運動を家庭での課題に課すなど、運動の日常化・生活化に取り組んだ。保健領域においては、学習内容を家庭に知らせるとともに、生活リズムチェック週間等の家庭を巻き込んだ教育活動に併せ、各家庭での実践を促した。

(イ) 学習過程の工夫

○西小体育・保健の学習スタイルの導入

体育科の基本的な授業展開を示した学習スタイルを作成・導入することで、全学年の足並みを揃えて児童が主体的に課題を解決する授業を目指した。

○基礎感覚づくりの運動の充実

主運動につながる基礎的・基本的な動きを身に付けるために、全学年で器械運動系の単元を通して基礎感覚づくりの運動に取り組んだ。

(ウ) 学習環境の工夫

○主体的に課題を解決する場の設定

個々の課題に応じた練習場所や難易度が異なる練習場所を意図的に複数設置し、児童が主体的に課題を解決することができるようにした。また、思考したことを記録するスペースを限定することにより、安全に運動することができる環境づくりに努めた。

○ティーム・ティーチングによる支援の充実

ティーム・ティーチングで授業を行い、T1・T2の役割を明確化することで、個に応じた専門的な指導やより正確な評価を行うことができるようにした。

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

【主体的に課題を解決するための学習活動等の工夫】

○一単位時間の中で練習する技を全員同じものに限るか個々に応じたものにするか、単元計画や

児童の課題達成状況に応じて授業者が選択することにした。これにより、児童の学習意欲や粘り強く練習に取り組む気持ちが高まった。

- ワークシート等を活用して一単位時間における個々の課題を毎回明確化させ、授業者がその課題に対する評価や励ましを記録していくことにより、児童の課題達成状況のより確実な見取りにつながった。
- 個々の課題を可視化し、他の児童へ広げたり、時には学級集団の共通課題として考える時間を設けたりすることにより、児童相互のアドバイス内容の質が向上した。
- 保健領域では、単元や本時の導入時に身近な健康課題を取り上げたことにより、児童が学習課題を自身の問題として捉え、学習に臨む姿が見られた。
- 保健領域では、関連する教育活動の例を紹介して励ましたり、関連する教育活動に取り組む際に身に付けた知識を振り返ったりすることの積み重ねを重視したことにより、身に付けた知識と実生活とを関連付けながら思考・判断・表現することができるようになってきた。
- 体育科の授業を中心に、児童主体型の課題解決型学習を継続的に展開したことにより、他教科の授業でも、自分の考えを進んで話そうとする児童や友達と相談して課題を解決させようとする児童の姿が多く見られるようになってきた。
- カリキュラム・マネジメントの視点を大切にし、全学年で同領域の学習時期を揃えることにより、授業における運動量確保を目指した準備・片付けの効率化を図るとともに、教職員間の情報交換や相互助言が活発になり、授業改善につながった。また、運動領域と保健領域についても、効果的に相互の学習内容を関連付けるための学習時期について検討した。
- 一単位時間における支援・評価の抽出児を設定することにより、単元全体を通して、全ての児童に漏れなく適切な支援・評価を行うことができるよう試みた。しかし、運動に苦手意識を持っている児童や高度な技を練習している児童の支援に気を取られることが多く、全体に目を行き届かせることが困難であった。

【主体的に課題を解決するための学習環境等の工夫】

- 器械運動で練習する技やボール運動の基本的なルール等について掲示物を作成し、重要なポイントを穴抜きにする等工夫したことにより、児童の思考・判断・表現が活発なものになった。また、掲示物を活用した学び合いの姿が多く見られるようになった。
- ICT機器の活用により、児童が自己の課題の達成状況を確認し、練習に生かすことができるようにした。しかし、ICT機器の映像を自分で確認することができるようになったことで、逆に児童相互の学び合いが減ってしまったグループもあった。ICT機器の活用については、今後一層検討を重ねていく必要がある。
- チーム・ティーチングを導入し、T1・T2の役割を明確化したことで、運動に苦手意識をもっている児童への個別支援が充実した。(個別支援は、主にT2が担当。) 今後は、個々の課題に取り組む際の形成的評価を一層充実させる観点から、評価場面におけるT1・T2の役割分担や具体的な評価規準の共有方法について、一層研究を重ねていきたい。

4 今後の取組

体育科の全領域について、思考力、判断力、表現力を育むための協働的な課題解決学習や評価の方法、チーム・ティーチングによる指導の在り方を継続的に研究する。また、カリキュラム・マネジメントの観点から、他教科や学校教育活動全般との関連の在り方を探るとともに、保育所や中学校との接続を踏まえた学習指導について一層研究を進めていきたい。

5 研究協議会の中で協議したいこと

- 中学校との接続や身に付けるべき知識及び技能の系統性を踏まえた学習活動について
- 児童同士の学び合いにおける言語活動の質の向上について
- 体育科と他教科との関連をより深めていくための考え方や実践例について
- より効果的なT2の活用について